ほっとコラム

「　階段を上る♪　」

幼児教育アドバイザー　小畑　文子

子供たちは階段を上るのが大好きです。特に4月。

階段を上った先には、子供たちがまだ見たことがない世界が待っているのです。新しい教室、新しい先生、新しい友達、新しい生活…、大きくなった嬉しさを実感する場所です。この気持ちは、園児も小学生もきっと同じですね。

卒園を間近に控えた年長児は、一年生になるのが楽しみでたまりません。階段よりもっと高い段差を上れるのですから、その期待度は今までの比ではないでしょう。

「せんせい！　しょうがくせいになったらね、べんきょうをがんばるんだ！」

「ぼくね、もう100までかぞえられるよ。」「まいにちしゅくだいがあるんだって。」

「わたしは、なわとび！」「ともだちもね、いっぱいつくるんだ。」

「せんせい！　ぼくのなまえ、こうかくんだよ！　みて！」

広くて、大きくて、お兄さんお姉さんがいっぱいの小学校は、子供たちにとって新しいことが始まる希望の場所なのです。机に向かって教科書を広げる日が待ち遠しくてたまりません。

こんなふうに期待と意欲に満ちあふれた子供たちですが、入学した当初は、大人が思うよりきっとずっと緊張しています。新しい友達、新しい先生、新しい教室。夢にまで見ていた小学校ですが、登校するところから始まって、今までとは勝手が違うことがたくさんあるからです。小学校では、この期待と不安を上手に受け止め、新しい生活へと移行させていかなければなりません。

子供たちの入学前までの生活は様々で、保育所、保育園、こども園、幼稚園での生活や活動の経験は一人一人異なり、家庭での生活の様子にも違いがあります。ですから、子供たち一人一人が安心して学び、自己を発揮できるようにするためには、個々の子供がこれまでに培ってきた力をしっかりと認め、伸ばすという視点が大切になります。

昨年度の保幼小連携地区ブロック研修会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて保育参観・授業参観が行われました。テーマを絞り子供の姿を通して話し合ったことによってこれまで以上に互いの教育活動や指導方針を理解し、自分たちの保育や教育に生かそうという意識が高まったのではないでしょうか。

子供の発達や学びは幼児教育で完結するのではなく、また、小学校教育がスタートでもないことは言うまでもありません。だからこそ、接続期における幼児教育は小学校以降の生活や学習の基盤に繋がることに配慮し、小学校においては、幼児期に育まれた資質・能力を踏まえるとともに、それらがどのようにして培われてきたかを理解することが大切だと言えます。例えば、「字を書けるようにして入学させたいのですが」（保護者）という要望があったとき、保・幼・こ・小の先生方はどのように答えますか？　幼児教育の学びが小学校教育のどこに生きるか、それぞれの立場を知り、認め合って連携を進めることが、階段を上る子供たちの笑顔につながるのだと思います。